



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

日本二十六聖人

教区主催 殉教記念ミサ
2 月 4 日 (日) 14 時 西坂公園
※雨天時は中町教会
連続ミサ (ゆるしの秘跡あり)
2 月 5 日 (月) 9 時、11 時、13 時、
15 時、17 時、19 時
聖フィリッポ教会

日本二十六 聖人記念館 ガルシア館長に聞く

殉教者のことを伝えて

長崎市西坂町、小高い丘にある日本二十六聖人記念館。昨年 3 月、館長を務めていたデ・ルカ・レンゾ師がイエズス会日本管区長に就任し、館長後任としてアントニオ・ガルシア修道士が就いた。まもなく 1 年。記念館の現在の様子を引き継がれる役割について、ガルシア館長ご自身の日本への宣教の思いも合わせてお話をうかがった。(広報委員会)



―西坂には多くの人が訪れますね

―館長の任命を受けたとき、最初どのように感じましたか

あまりびっくりしませんでした。レンゾ神父様が日本管区長になって、アギラール神父様もおられない。松村神父様もさまざまな務めがある。そうした中で「ガルシアさん、しばらくの間、館長をしてください。副館長(長野さん)と管理の方(宮田さん)もいますから、心配しないでください」と話をいただきました。

り、雑誌を 1 年分まとめて製本する作業もしていました。あるとき、宣教師の雑誌で原爆の記事を見ました。被爆した広島、長崎の町を見て、とにかくびっくりしました。私は司祭ではないけれども、宣教師にはなれませんが、管区長に日本への派遣を頼んで、「素晴らしいこと、考えましょう」と。それから許可が下りるまで半年くらいかかりました。二十歳そこそこだったので「旅行したいんじゃないか」とか、いいえ、宣教師になりたい。それで決まりました。日本に着いたのは 1950 年 8 月 15 日の夜。フランススコ・ザビエルが日本に着いた日。聖母被昇天の日。それから戦争が終った日。素晴らしいお恵みです。

―日本での年月を振り返ると

来日当時、日本は貧しく、日本語学校もなく、学ぶにも本だけ。もう帰りたい、日本語は難しい、食べ物も気候もわるい。だけど今、東京、横浜、神戸、広島、長崎に友達いっぱいいます。今のフランススコ教皇様も(1987 年に教皇が司祭として来日した時をきっかけに) 友達になりました。

―ところで、ガルシアブラザーはなぜ来日を希望なさったのですか

スペインから日本に来て 67 年、今年 89 歳になります。15 歳のときイエズス会に入り、1948 年に初誓願を立てました。その後、180 人くらいがいる大きな修道院で受付の係をしていました。いろいろの仕事があ

―日ごろ感じていることは？

した。私がやりたかった宣教、聖体奉仕、病人訪問、教会の手伝いなどができました。丸 67 年の間にはイエズス会の中でも以前やり方が見直され、いろいろな変化がありました。

パパ様は貧しい人々のための教会を宣言されました。教会は貧しい人、病気の人が、そこから始まった。聖体奉仕者として聖体を配る時、その人の顔を見て、「幸いなるかな、心の清い人」いつもその福音を思い出します。だけど、疲れた顔をしている人もいます。神様の祝福を願います。キリストの心を信じます。どの人も自分の十字架がいつもありますよね。神様はその人間を使いたい。自分にとつては二十歳で宣教師、最後に館長。召し出しは今も続いていますね。

―初代館長の結城了悟神父様、2 代目のレンゾ神父様、3 代目のガルシアブラザー：と引き継がれている記念館。その役割とは

殉教者たちのために建てられたサントワリーヨ(巡礼所)。訪問者に歴史を説明し、記念館を出るときにはみんな、「すごいね」と感心しています。「二十六聖人のことがよく分かった」「沈黙(2017 年)の映画もよく分かった」。どれほど苦しいんだか、信仰を守ったか、これは神様への信仰、聖霊で守ったね。とにかく、ものすごい宣教、いいと思います。殉教者のことを伝える素晴らしい仕事だと思っています。お客様との時間を大切に、日本のため、長崎とカトリック信者のため、ローマ・カトリックの国のため、全世界のため、続けたい。何か、殉教者の気持ち、心を感じます。イエズス会はこのからも記念館を大事な場所として守っていきたくて考えています。

記念館は 9 時〜17 時開館。年末年始のみ休館。

菊地 功大司教が着座



昨年 12 月 16 日(土) 11 時から、東京大司教区でタルチシオ菊地 功大司教(写真)の着座式が行われた。式には国内外各地から枢機卿や司教らが多数参列し、会場の東京カ

テドラル聖マリア大聖堂に 2000 人超が集まった。大聖堂に入りきれない参列者は、屋外などに設置されたモニター映像を通して式典を見守った。

ミサは、日本の司教団や教皇大使ジョセフ・チエノツトウ大司教、ソウル教区のヨム・スジョン枢機卿、ドイツや韓国、ガーナの司教、国際リタス関係者や神言修道会副総長ロバート・キサラ神父、約 150 人の司祭団が共同司式をした。前任者の岡田武夫大司教から菊地大司教に司教

杖(バクルス)が手渡され、菊地大司教は司教座に着座、第 9 代大司教として就任した。

式典に参列した、菊地大司教が責任司教を務めるカリタスジャパンの職員で長崎市出身の小野亜衣子さんは、「菊地大司教様のモットーは『多様性の一致』だそうです。着座式に、大司教様がかつて働いておられたガーナからも司教様方が駆け付け、ガーナ式のお祝いをなさったのも、それを表しているようでした。多様性を大切にできる教会でなければとあらためて思いました」と語った。

田平修道院 100 周年

お告げのマリア修道会 記念式典

お告げのマリア修道会 田平修道院は昨年 2017 年 12 月 21 日に創立 100 周年を迎え、12 月 17 日(日) ささやかな記念の式典を行いました。

徒会館で、参加の皆様と手作りの真心こもるお菓子をいただきましたが、100 年間のさまざまな出来事をしのび、和やかにお茶会を行いました。



お茶会

山内清海神父様をはじめ長崎教区の田平出身神父様方、平戸地区の神父様方、田平町周辺の信徒の皆様 200 人余の参加をいただき、感謝のミサをささげました。半年後に献堂 100 年となる田平教会内いっばいにラテン語のミサ曲が響き、祭壇を囲んで、天と地が一つになったような感動を覚えました。ミサ後は信

徒会館で、参加の皆様と手作りの真心こもるお菓子をいただきましたが、100 年間のさまざまな出来事をしのび、和やかにお茶会を行いました。

田平修道院は、明治初期、外国人宣教師によって創立された修道会の誕生から三十数年を経た大正 6 年、田平教会初代主任司祭中田藤吉師によって、田平近隣の信徒の信仰教育のために「田平愛苦会」の名称で創立されました。中田師は、会員の住まいのために土地を求めて信徒と共に修道院を建て、会員の先頭に立つて祈り、かつ、働きま

した。会員は、厳しい師の導きに従い、信徒の助けを受けながら自給自足の貧しい生活を送り、養蚕・機織り、炭焼きなどで収入を得て納税の義務を果たし、併せて信徒の教化に努めました。その実りとして、田平教会からたくさんの司祭・修道



感謝ミサ

者が出され、現在も教会の教化に努めました。その実りとして、田平教会からたくさんの司祭・修道

田平修道院
院長 山下百合

ほしかげ

中国旧正月の春節祭をラナンフェスティバルとして祝うのも、冬の長崎を彩る風物詩として定着しています。他宗教との活動のご縁もあり、昨年 12 月に南京に赴き、13 日には南京大虐殺犠牲者国家追悼式典(昨年は旧日本軍の南京占領から 80 年にあたる)に日本人招待枠で参列する機会をいただきました。加害の側から記念館を訪れるのは悲痛な思いにも駆られます。しかし人々からは記念館を訪れてくれたことに対して歓迎されている印象を受けました▼思えば、私たちも欧米の人が原爆記念資料館を訪れ、悲しみと痛みを共有してくることに安堵する気持ちとつながるかと感じます。「抗日」を叫ぶ中国という偏ったこちら側の報道からも解放された思いです。代表宗教者祈祷集会でも人々は犠牲者に瞑目しつつ「平和」を祈念していました。しかし私がそこに加害の側で参列していることはこれらの大事な学びと向き合い方と捉えています▼式典の縁で、中国天主教愛国教会の南京主教とも言葉交わしました。「今度教会にも来てくださーい」と歓迎の言葉をいただきました。バチカンと中国が未だ国交がなく、教会も複雑な問題を抱えています。それは政治的なことで信徒は同じ信仰生活を送っています。中国と長崎は地理的にも文化的にもとても近い。長崎の教会はさらなる日中友好の大切な懸け橋となれる気がします。(昭)

Synod 2018 Youth, faith and vocational discernment

『若者』をテーマにしたシノドスに向けて

教会はいつも新しくなる②

「神の国はあなたたちの間にあるのだ」

長崎カトリック神学院 松田 聡史

1. 神学生養成の現場から

神学校というところは、将来「司祭として生きていく」「司祭になる」とことと「司祭として生きていく」ことは違います。ために必要なものを身につけていけるよう、日々神と向き合い、自分と向き合い、周りの人と向き合いながら自己鍛錬していく場だと私は考えています。小神学校、コレジオ、大神学校とそれぞれ段階の違いはありますが、果たす役割は同じだと思えます。小神学校は、中でも特に基礎的な部分(祈ること、自立心、協調性、責任感、学力など)を身につけることを養成目標としています。

日頃、神学生養成に関わりながら感じていることがあります。それは中高校生を神学生として育てていくために、養成スタッフと出身教会の主任司祭、そして家族との協力体制がいかに大切かということ。なぜなら、養成の場は神学校だけではないからです。夏休みなど長期休暇中は、地元の教会とそれぞれの家庭が養成の場となります。主任司祭の指導のもとに神学校の成長のために大きな力となりますし、信徒の皆さんの励ましは、気持ちを高め、前へと向かうとする力強い推進力に変えられていきます。家族には「家庭も養成の場である」という明確な意識と覚悟が求められます。家族は、神学生にとってもっとも身近な支援者であるからです。家族がともに召命のために祈り、その思いが一つになっっているならば、本人も安心して自覚をもってしっかりと歩んでいくことができます。

司祭になるためには長い時間がかかります。長い時間をかけて育てていくのは、「司祭として生きていく力」をしっかりと身につけるためです。ただそれは簡単なことではありません。価値観が多様化し、混乱している時代にあつて、神学生も確かに影響を受けていますし、自分と向き合いながら葛藤し続けているはず。迷ったり、乗り越えたりを何度も繰り返しながら、人間的にも霊的にも成長し、少しずつ司祭として生きていく力を身につけていくのです。そういう意味でも、一体になって「みんなが神学生を育てていく」という意識と協力体制は、大切であるばかりではなく、必要なのです。

2. 宣教師たちから受け継がれた思いの形

小神学生の数は100名を超えていた時代が懐かし、現在は16名(内5名は福岡教区)と大幅に少なくなりました。それでも「神学生がいる」ということは希望だと考えています。宣教師たちから脈々と受け継がれてきた思いが、まだ形として確かにここに残っているからです。

日本で最初に教区司祭を養成するための神学校が建てられたのは1601年9月でした。ルイス・セルケイラ司教によつて長崎に設立されたその神学校は「聖職者のセミナリヨ」と呼ばれ、宣教師たちの思いの中心にあった「自立した教会をつくる」ための一歩がそこから始まりました。日本人による司教と司祭によつて教会組織を完成させることが、「自立した教会」のしるしである。宣教師たちは考えたからです。迫害の勃発と宣教師の国外追放によつて、1614年には一瞬にしてその終末を迎えることになるのですが、13年間に7名の教区司祭が誕生したと記録されています。

250有余年にわたる潜伏の時代を乗り越えて、その思いのバトンを受け継いだのはバリエ国宣教会の宣教師たちでした。プティジャン神父は、信徒発見の年(1865年)の12月には早くも3名の少年を神学生として受け入れ、大浦司祭館の屋根裏(「無原罪の御孕りの間」)にかくまひながら、養成を始めていきます。「浦上四番崩れ」の際には、マレー半島ペナンに逃れる時期もありました。しかし、禁教令が解かれた2年後の1875年には大浦天主堂の側に4階建ての神学校校舎が建てられ、1882年には待ち望んだ復活の教会後初めて日本人司祭が3名誕生するのです。

その後、校舎は時の要請に応える形で移動を繰り返し、長崎も日本人司教(早坂久之助司教)を迎えて教区として自立し、バリエ国宣教会の宣教師たちは新しい場所へと旅立って行きますが、彼らの思いは受け継がれて、ずっと大切にされてきました。大浦司祭館の屋根裏から始まった現在の神学校も、創立152年を過ぎました。その間途切れることなく神学生の養成は続けられてきたのです。その思いがこれからも続く限り、「神学生がいる」ということは長崎の教会の希望です。

3. 途切れることなく…

将来の教会を担う若者、担ってほしい若者がいなくなってきたというのでは、長崎のどの小教区も抱えている問題だと思います。少子化高齢化は進み、若者たちが生活の場を都市へと求めていくという流れは、今後も続いていくのかもしれない。でも、教会に若者が「いない」のではなく、少なくなっているとはいえず、「いる」のです。各委員会の取り組みや小教区独自の活動に若者の姿があることは、『カトリック教報』の記事を通じて知ることができます。すばらしい活動や貴重な体験をしていると思います。若者の強みは発信力です。そこから得たものを外に発信することで、さらに広がりを見いだすこともできるでしょう。時の流れの中で、活動の中心や体験の形はこれまでも変わってきたし、これからも変わっていくかもしれませんが、途切れることなく続けられていくことに意味があると私は思います。

正直、私自身に若者たちに向けての特別な新しいアイデアがあるわけではありません。しかし、基本的な姿勢は、神学生の養成と同じことが言えるのではないかと考えています。教会全体で、司祭、家族、地域の人々、また各委員会が一体となり、思いを一つにして協力体制を敷きながら、みんなで支え育てていくということ。ただ必要なのは「みんな」でという姿勢と「やる」というその覚悟ではないでしょうか。

4. 神の国は

「わたしたちの間に」ある

「神の国は、見える形では来ない。『ここに』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ17・20・21)。

主が語られたこのみ言葉は、神の国の実現のために私たちがどこに向かっていくべきか、あらためてその方向を指示してくれる言葉だと思えます。「神の国は人と人との間にある」と主は言われました。神が求めているのは、私たち一人一人がつかみ取っていること、関わりなのです。人と人との間をキリストで結ぶ、その関わりの中に神の国は実現していきます。

教会の歴史は関わり方の歴史です。関わりを通して外へと広がっていきました。それは時代が変わり、人や場所が変わっても同じです。あらゆる機会、あらゆる手段を通してみんなで関わっていくこと…、そこに若者たちへの希望も生まれます。

秘跡の恵みを大切に

長崎南地区合同堅信式



大司教と言葉を交わす受堅者の皆さん

第3回長崎南地区合同堅信式が、1月7日(日)午後2時から中町教会で行われた。高見三司祭の司式によつて、16人の司祭団の共同司式のもと、9小教区の中学生32人と大人10人の計42人が堅信の秘跡を受けた。

ミサの中の説教で大司教は、堅信の7つの賜物について説明し、聖霊の働きに信頼して宣教の役目を果たし、堅信の恵みを生かすようにと求めた。式後の感謝式では、受堅者代表の山口優月さん(中学3年、木鉢教会)が、受けた秘跡の恵みを大切に、これから大人の信者として自覚をもつて信仰生活することをお約束した。保護者代表の小瀬良万里子さん(中町教会)は、自身の体験に基づいて、信仰に忠実に生きる姿は他の人に確かに伝わっていくものだとし、信仰を表す生活を大事にするように勧めた。

その後、信徒会館に移動。地区女性部の皆さんによつて準備された軽食を囲み、堅信式を終えた安堵感の中、大司教と受堅者の交流会が和やかに行われた。

一日を神様とともに静かに過ごしませんか？

2018年度 みつあみの会主催

一日の祈りの集い

私たち一人ひとりが置かれている現実から祈ることによつて、神と出会うよう、祈りの同伴者が個人的な面接を通してお手伝いします。ぜひご参加ください。お待ちしております。

開催日/場所(教会名)

2018年

5月19日(土) 城山
6月28日(木) 佐々
7月12日(木) 中町
10月21日(日) 植松
11月20日(火) 西町
12月1日(土) 本河内

2019年

1月26日(土) 三浦町
2月*未定 滑石
3月*未定 諫早

*「未定」は、決まり次第、お知らせします。

申し込み先

純心聖母会 山田房恵
(祈りの集い担当者)
〒852-8142
長崎市三ツ山町 415
FAX 095-843-7570
norasho@outlook.jp

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

(有) 小田 警備 保障

警備員募集！

電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523

長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦

教区青少年委員会主催 黙想会 日程と開催地区

詳細は各地区への案内をご確認ください

高校生 2/12(月) 上五島、下五島の各地区
3月予定 佐世保地区
3/18(日) 長崎3地区合同
3/26(月) 平戸地区
青年 2/25(日) 平戸地区
3/4(日) 10時～16時 教区全体(大司教館)

マイホームの美容と健康に！

(有) 山 川 塗装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進

佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175

医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011

24時間営業 FAX(095)843-9896

2017年度
臨時司教総会

16教区の司教集まる

担当の変更なども決定

昨年12月14日(木)、2017年度の第2回臨時司教総会が、東京・江東区の日本カトリック会館で開かれ、全国16教区から司教が集まり、オプザーバーとして男女修道会の代表者ら、事務局担当者らが参加した。

生涯にわたって自らを奉献

終生誓願式

7月に開催されたアジア・アン・ユースデーの報告などの後、今年1月からの新年度に向けて、宗教法人カトリック中央協議会の中期事業計画と予算案が承認された。また、岡田武夫大司教(東京教区)、押川壽夫司教(那覇教区)の退任に伴う、司教協議会内の担当司教の変更について話し合われた。総会終了後、この変更は有効となり、任期は他の役職と同様に早くから熱心な祈り



をささげてください。お告げのマリア修道会の終生誓願式が本部修道院で行われ、当日も大勢駆け付け

教協議会会長預かり、エキメニズム部門責任司教 前田万葉大司教、司教・修道者合同委員会委員 菊地 功大司教、諸宗教部門責任司教 宮原良治司教、新福音化委員会担当司教 白浜 満司教。

その他、典礼と列聖に関する議案が討議され、総会は終了。15日(金)は「司教のための社会問題研修会」が引き続き行われ、16日(土)には全司教が東京・聖マリア大聖堂での菊地 功大司教の着座式を共に祝った。

3月、長崎で集い開催

祈りと償いの日

一昨年2016年12月14日、日本司教団は日本における「性虐待被害者のための祈りと償い

2018「性虐待被害者のための祈りと償いの日」の集い

3月10日(土) カトリックセンターホール

12:30 開場 ※入場無料
13:00 開会あいさつ
高見三司教(長崎大司教)
松浦悟郎司教(子どものためのデスク責任司教)
13:30 講演 中島幸子さん(リエン法代表)
15:30 祈り
16:00 閉会

共催 カトリック中央協議会 子どもと女性の権利擁護のためのデスク、カトリック長崎大司教区 子どもと女性の人権相談室

問い合わせ先 子どもと女性の人権相談室

☎ 095-865-7829 (不在時、留守) (番電話対応)

の「日」を四旬節第2金曜日に設定したと発表。昨年の第1回(3月17日)に続き、今年は3月2日(金)がこの日にあたる。2002年、米国・ボストンでの聖職者による子どもへの性虐待事件を端として世界各地で明るみに出た同様の事件。教皇フランシスコは自らこの問題に取り組むと同時に、全教会が問題に真摯に向き合うよう促し、全世界の司教協議会に対して「祈りと償いの日」を定めるよう通達していた。日本のカトリック教会においては被害者に寄り添う仕組みづくりが課題となっていたが、「子どもと女性の権利擁護のためのデスク」が教区担当

感謝のうちに 歩んで

第23回 召命祈願ミサ

昨年12月17日(日)、城山教会で召命祈願ミサが行われた(写真)。今回で23回目となるこの召命祈願ミサには、長崎カトリック神学院・聖ルドルヴィコ神学院・聖コルベ志願院・福岡コレジオの志願生や、純心聖母会の志願生、またそれぞれの養成担当者や保護者たちを含め、200人ほどが参加し、厳しい冷え込みに見舞われる中、司祭・修道者の召命のために熱心な祈りをささげた。



説教を務めた松尾太師(聖アウグスチノ修道会・城山教会助任)は自らの召命の道のりを振り返り、「決して楽な歩みではなかったが、この道を選んだことを後悔したことは一度もなかった」と語った。そして、神学生・志願生たちに対して「皆さんが今歩んでいる道は、確かに素晴らしいものですが、同時に恵みの偉大さの弱さを認めながら、自らの弱さを認めながら、同時に恵みの偉大さ

講話「召命と福音宣教」

教区修女連 新年の集い

1月6日(土) 長崎教区修道女連盟による新年の集いがカトリックセンターで行われ、「召命と福音宣教」について高見三司教様のご講話をいただきました。高見大司教様は、召命は、招かれたことを意識すること、神が招き、招かれた人がいて招きの目的

子どもと女性の 人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。
場所 カトリックセンター別館
連絡先 095・865・7829
時間 月・金 10時～16時
*第3月曜日は休日(祝日・教区本部事務局休業日など)を除く
相談室長 マリア 福田真理

外国人労働者らの現状

日本カトリック
難民移住移動者 長崎教会管区セミナー

12月17日(日) 日本カトリック難民移住移動者委員会、長崎教会管区セミナーが行われた。長崎教区人権・難民移住移動者委員会主催。広島教区のグエン・クアン・トゥアン師は、出身国ベトナムの教会について、政権の宗教弾圧により教会や修道院、経営する学校が破壊され続ける現状と、迫害を受けながらもカトリック信者が



岩本光弘氏



映像を交えて話すグエン神父

な事例をもって、実習生が置かれている環境の実

18年度の行事など審議

教区顧問会

教区顧問会が昨年12月12日(火)、大司教館で開催された。前回は審議された大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会の黒崎修道院の土地・建物の寄贈の件について、修道会の意向を尊重し、受け入れることを決定した。しかし、今後の活用について課題を残しており、広く意見を聞くこととなった。

また、予算書・決算書の勘定科目の改定が承認

1924年佐世保市生まれ。46年黒島愛苦会(後の黒島修道院)に入会。59年初誓願、66年終生誓願宣立。若い時から働き者で、骨身を惜しまず畑仕事に



マリア 岡フサ 修道女

(お告げのマリア修道会)

昨年12月17日、佐世保記念病院で逝去。93歳。

食事中の会話にも花を咲かせた。晩年、病床で「宣教は明るい顔でなければならぬ」と話し、これまでそうであったように、病苦の中にあっても常に笑顔顔を心がけた。葬儀ミサ・告別式は12月18日、黒島教会で行われた。

『二つの冠』長崎で上映

コルベ神父の生涯を描いた映画



ほぼ満席となった上映会(トークショー)

昨年11月25日(土)12月15日(金)東京都写真美術館ホールで開催されたポランド広報文化センター主催の『ポランド映画祭2017』

その作品の一つ、聖マキシミリアノ・マリア・コルベの生涯を描いた『二つの冠』が長崎でも上映され、12月11日(月)、会場のカトリックセンターに350人余が集まり、感動を分かち合った。同作品は、隣人のため



小崎修道士(右)に感謝状が贈られた

に命をささげ、「アウシュヴィッツの聖者」と呼ばれたコルベ神父(1894~1941)の生涯、神父とゆかりのある場所や人々の証言を交えて表した。タイトルは、コルベ神父が子どものときに見た幻、「聖母から白(純潔)と赤(殉教)の二つの冠のどちらを受け入れるか尋ねられ、彼が「両方ほしい」と願ったエピソードからとられている。撮影は、ポラ

ンド国内だけでなく日本、長崎でも行われた。上映後にはミハウ・コンドラト監督と俳優のタデウシュ・フデツキさんによるトークショーもあり、制作への思いや日本での撮影の中で感じたことなどが語られ、質疑応答もあった。参加者の一人は、「コルベ神父様が数学や物理にも深い関心を持って学んでいたことなど、知らない一面もあった。来崎した翌月に『聖母の騎士』誌を発行したことに驚く。今もたくさんの方がコルベ神父様を慕っているのだなと思った」と語っていた。上映会に先立っては、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の小崎修道士がコルベ神父に関する話をし、その後、ヤツェク・イズイドルチク駐日ポランド大使から小崎修道士に、「ポランド人宣教師による事業を長年にわたり継承した」ことなどに対して感謝状が贈られた。

『追悼』『カトリック教報』元編集委員 深堀 柱 さん

あきこ

昨年12月13日、深堀柱さんの訃報が広報委員会に届いた。同日午前3時、急性心筋梗塞のため長崎市の自宅で亡くなられた。87歳だった。葬儀は15日11時から城山教会で、多くの人が参列する中、行われた。深堀さんは長年、西日本新聞社やテレビ長崎など報道の仕事に携わり、現役時代から本紙『カトリック教報』の取材・編集に協力し、定年退職後

★やぶ椿 新刊良書

著 川添岳石 長崎教区司祭、川添猛師(昨年11月17日逝去、享年85)の句集。「死と笑い、切なさと思え、そして希望によって



編まれた句集『やぶ椿』は、削ぎ落とされたいのちから生まれたもので。そしてこの句集は、

皆で分かち合おうとする熱意にあふれていた。広報委員会に保管している写真には、深堀さんが撮影したのも多く見られる。公式行事の一場面の他、一瞬の小さな



出来事、教会で奉仕する人々の姿にいつもカメラを向け、心を向けていた。「それからの家庭」「人などといった書き手の持ち味から自然と出てくる記事からも、丁寧な誠実に取材をしていた様子が見えてくる。一行、一文字の重みも教えていただいた。現在のようにパソコンが使われていない手作業の時代から、いわば、なまもの、である情報によって常に変化する紙面スペースに対応できるよう、幾

通りのかの割り付けや原稿を準備することもあった。広報に向かう深堀さんの姿勢は、時間も労力も感じさせなかった。2011年「ヒバクシャ地球一周証言の航海」への参加とともに広報委員会を退かれたが、その後も協力を惜しまず、求めに応じて助言や奉仕を続けてこられた。深堀さんが示してくださった「カトリックの広報」の精神を忘れず、これからも活動に真摯に取り組みたい。広報にとつて恩人である深堀さんに感謝をささげたい。ありがとうございました。(教区広報委員会)

俳句という受け皿でキリストの福音を生きた川添岳石の遺言です。(古巣馨はじめに)より」税別12000円。ドン・ボスコ社。

▼教皇フランシスコ平和メッセージと神父さんとともに歌うコンサート 2月12日(月)14時、カトリックセンター。講師：光延一郎師(イエズス会)。沖縄平和学習の報告あり。教区平和推進委員会主催。

▼臨床パストラル教育研究センター一日研修会『スピリチュアルケアは誰が誰にするのか』2月24日(土)9時30分~16時30分、聖フランシスコ病院エリザベトホール。講師：加藤理人氏(同センター監事)。参加費2千円。同センター九州ブロック主催。申込先(2月14日)切、ファックスまたは郵送で。聖フランシスコ病院パストラルケア室 Sr.石岡 Fax 095-845-7600

〒852-8125 長崎小峰町9番20号。▼信徒発見ミサ 3月17日(土)19時、大浦天主堂。

主の平安 株式会社五島式典社(斎場)五島中央会館 代表取締役 ヨゼフ 浦 昭 24時間営業 五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552 五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102

みことばにふれて 145 平野 哲也 神父 (城山教会)



「美しいこの空を 愛らしいこの花を 浮かんでる白い雲 香りよき青草を じつと 眺めるだけで ただ 眺めているだけで ほら 君もわかるでしょう 神さまがわかるでしょう」という聖歌を聞くたびに、東京の教会学校の子どもたちを連れて、毎年、サマーキャンプに行っていたことを思い出します。

街は、人や車でごった返し、高層ビルに囲まれ、コンクリートとアスファルトで固められ、灰色に覆われた、そんな環境の中で生活している子どもたちにとって、山や川や海のある自然豊かな場所に行くことは、未知の世界へ冒険するようなものでした。普段の生活の場では、なかなか見ることでない、笑ったり、怯えたり。外灯に群がる虫を見るだけで大騒ぎです。

ある時、キャンプ場の下にある清流で子どもたちと水遊びをし、川辺で休んでいると、小学1年生のH君が、キラキラしたまなざしで、嬉しそうに近づいて来て、「ね、ね、見て、見て、神父さま、見て！」と私に何かを見せようと手のひらを開いて差し出しました。H君の手のひらを覗いてみると、それはそこら中にいくらかも転がっているただの小さい石ころでした。H君は、満面の笑みで「ね、ね、キレイでしょう!」と尋ねます。どこから見てもただの石ころにしか見えなかつ

た私ですが、「うん、H君、キレイだね」と答えると、H君は満足げに「これも神さまのおかげだね!!」と一言。もう感動です! 無造作に転がっている、ただの小さい石ころの中に神さまの美しさ、偉大さ、素晴らしさ、その御業を見ることのできるH君の心のキレイさに心を打たれ、圧倒されてしまいました。

「心の清い人々は幸い。その人たちは神を見る」(マタイ5・8)と主イエスは言われている。大人になると心が濁ってくるのでしょいか? もし、私たちがH君のような心で、神さまが創造された全てのものを見ることのできるならば、この世界は感動と驚きの場所になります。神さまは創られたものを通して、絶えず私たちに語りかけ、触れさせてくださっています。私たちがそのことに気づくならば、畏敬と感謝の念を持って生きとし生けるものをと大切

にできるのではないのでしょうか。

カトリック 月刊誌 『福音宣教』2018年のご案内 年間テーマ—いのち息づくところ

■特別企画 インタビュー「あなたのまなざしに聴く」 聞き手・原敬子 (援助修道会会員) ■新連載 「福音家族」晴佐久昌英 (東京教区司祭)、「時の階段を下りながら」三好千春 (援助修道会会員) 「行け、音よ翼に乗って」

三澤洋史(指揮者)、「私たちのかけがえない家」で吉川まみ(上智大学神学部講師)、「イエスが出会った女性たち」(4月号から)山口里子(聖書学者) 年間購読料 1冊あたり 6300円(税・送料込) 年11回/8・9月合併号

お申し込み 郵便振替用紙で購読料をお振り込みください 振替口座 00170・2・84745 加入者名 オリエンズ宗教研究所 お問い合わせ オリエンズ宗教研究所 Tel. 03・3322・7601 Fax 03・3325・5322 http://www.orient.or.jp/

代表取締役 ミカエル 溝口 晃 〒858-0926 佐世保市大湊町586 TEL (0956) 47-4380

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・典礼会館・中央斎場 長崎・諫早・大村・佐世保 株式会社メモリアル 事務局 ベトロ 田川慶司 0120-44-6666

タンソの中身は入れたまま 責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します) 24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00 水浦運送 シモン 水浦 幹雄 長崎市長上野町12-3 TEL (095) 847-7151 844-1420

主の平安 株式会社五島式典社(斎場)五島中央会館 代表取締役 ヨゼフ 浦 昭 24時間営業 五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552 五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付 白蟻防除施工士 大田白蟻研究所 代表者 大島和彦 (〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号 富長崎 095-822-8436 FAX 095-822-8488

石 碑 文字彫刻 墓地工事 リフォーム 墓地分譲 なが さき せき ちょう 長崎石彫 ヨゼフ 岩永 博明 ☎(095) 862-2469 長崎市梁川町6-17 岩永ビル